



## 令和6年度 茨城県優良図書紹介【高校生・勤労青少年向け】



### 『宇宙わたる教室』 伊与原新（文藝春秋）

都立高校の定時制高校に通う生徒達が、科学部を結成し、火星のクレーターを再現する青春小説。何歳であろうと、どんな事情を抱えていようと、その気になれば、何だってできることを登場人物達が証明してくれる。



### 『この夏の星を見る』 辻村深月（KADOKAWA）

茨城県内の高校2年生の亜紗（あさ）。渋谷区立中学1年生の真宙（まひろ）。長崎県五島列島内の高校3年生の円華（まどか）。2020年、緊急事態宣言が出され、学生生活が次々と制限される中、3人は先の見えない日々複雑な思いを抱えていた。亜紗が所属する天文学部で行われていた、望遠鏡で星を捉えるスピードを競う「スターキャッチコンテスト」をきっかけに、3人とそれぞれの仲間達はリモート会議で繋がっていく。

## 『リカバリー・カバヒコ』 青山美智子（光文社）



新築マンションのアドヴァンス・ヒルに住む高校性の奏斗、主婦の紗羽、休職中のちはる、小学生の勇哉、雑誌編集長の和彦、それぞれは悩みを持ちながら生活している。近くの公園には、自分の治したい部分と同じ部分を触ると回復するという都市伝説があるカバの遊具があった。人呼んで、「リカバリー・カバヒコ」。カバヒコによってリカバリーしていく人々の心温まるストーリー。

## 『夜空にひらく』 いとうみく（アリス館）



17才の鳴海円人はアルバイト先で暴力事件をおこして試験観察処分となった。祖母と二人暮らしの自宅では試験観察が難しいため、煙火店を営む深見静一という男の自宅で生活することになる。円人は、深見やその家族、煙火店で働く人々と交流しながら、花火作りに携わっていくことになる。円人が補導委託先の煙火店で働く人々との交流を通して、自分と向き合い、成長する物語。